



「こんにちは 市長です」

10月15日号

「死亡叙勲」という言葉を聞いたことがありますか？文字通り、亡くなられてから勲章をもらうということです。今月の初め、友引の日を選んでA氏宅を訪れた。職員に聞くと、大安か友引の日を選ぶという。そんなことを気にしない人が増えているとは聞くけど、まさか、仏滅の日に勲記勲章授与は似合わない。A氏はこの春、突然亡くなられた。「日本国天皇は〇〇に旭日単光章を授与する 皇居において璽(じ)をおさせる」そして日付があって「内閣総理大臣菅義偉印」とある。息子さんに伝達できた。死亡叙勲の他、高齢者叙勲がある。その伝達が私の役割であるけど、菅さんの署名は後にも先にもこの一度だけだ。もう、今日から岸田さんである。安倍さんは何十回もあった。菅さんが署名した勲記はほとんど出回っていないのではないかな。これはお宝ものである。

新型コロナ感染拡大の対応は安倍さんから菅さんに引き継がれた。いろいろ言われて短命内閣で終わってしまった。そりゃあ原稿を読みながら記者会見する姿は寂しかった。菅さん、あなたは日本国を背負っているんだよと届かない声で叫んでいた。皮肉なことに、総裁選の出馬断念とともにコロナ感染者数が急激に減ってきた。重症者数もぐんと落ちた。専門家と称する方たちが連日テレビでああだこうだとしゃべっていたのがぴしゃりとやんだ。菅さんは「ワクチン」一点集中のようにみえた。総理を辞したからコロナが減ったわけではなく一所(いっしょ)に懸命だった、その成果と思いたい。

知事に話して葦川西小跡地を接種会場にできた。あれは助かった。8月28日に県が公表した感染者数146人は衝撃的だった。「あの時、顔が引きつっていましたね」と言われた。PCR検査を市独自で拡大した。高校生の希望者には接種を、企業などにも考えられる手を打ってきた。ここ数日は市内のコロナ感染者ゼロが続いている。(10/4記)